

トルコ共和国におけるメフテル（オスマン軍楽）の現在

斎藤 完

The Present Situation of the Mehter in the Republic of Turkey

SAITO Mitsuru

(Received September 30, 2011)

オスマン朝時代の軍楽隊であるメフテル団は、現在、その歴史のなかでも最も普及している時期を迎えている（Star 紙 2008年8月10日）。

1997年から2010年にかけて、トルコ共和国の音楽に関して現地調査をおこなっているが、近年に顕著な傾向として挙げられるのが、メフテル¹ mehter が演奏される場や機会の多様化、さらにはその頻度の飛躍的な増加である。たとえば2010年9月の調査（イスタンブル）では、ラマダーンのイフタール後の娯楽としてメフテルのコンサートが催されているのが確認されたが、これは少なくとも十年前には見られなかったことである。あるいは2009年6月のことだが、ピザ屋の開店祝いにメフテルが奏されていた。

このような状況を裏書きするべく、新聞記事を調査したところ、冒頭に引用した一文で始まる「メフテル団間における師弟争い Mehteranlar arasında dede-torun kavgası」という記事に行き当たった。同記事は、イスタンブルに存在する13のメフテル団間の不和を報じるものだが、この一文に現況が端的に表現されていると言えよう。

本研究はこの現象を音楽的要因とそれ以外の要因から明らかにしようとするものである。

音楽的要因について——音楽的内容の検討——

まず音楽的内容を検討してみたい。

検討の対象としたのは国防省 Milli Savunma Bakanlığı に属するメフテル団、ならびに文化観光省 Kültür ve Turizm Bakanlığı（以下、文化省）に属するメフテル団である。

前者は1952年に設立された団体で、陸軍の管轄下であり団員たちは軍における職階を有している。イスタンブルに位置する軍事博物館における定期公演が活動の中心だが、国内外において出張演奏もおこなう。後者は1991年に設立された、イスタンブル・歴史的トルコ音楽合奏団 İstanbul Tarihi Türk Müziği Topluluğu のメフテル部門で、常設の公演場はなく国内外での活動をおこなっている²。以下、国防省メフテル団、文化省メフテル団として検討したい。

¹ “mehter” の日本語表記には「メヘテル」（柘植 1982、小柴 1994）もあるが、本稿ではより一般的に普及している「メフテル」にする（たとえば、Google で「メヘテル」という語から約288件が検出されるのに対し、後者では約12,500件となっている）。なお、メフテルはオスマン帝国の西洋近代化の一環として1826年に廃止されたのちに、1914年に再興されるが、共和国政府により再び廃される。再々興は1952年のことで、その後、イスタンブルの軍事博物館で定期的に演奏されるようになる。

² 同団団員スィナン・エルデムセル Sinan Erdemsel 氏によると、両者の違いは、後者は音楽院などで音

国防省メフテル団

まず、国防省メフテル団による軍事博物館での定期公演を記録し（2009年6月25日）、1964年に小泉文夫が採録した同博物館での定期公演³と比較検討することで、音楽的内容における通時的な変化の有無を検討した。

結論としては、2009年版ではテンポがいくらか速くなっていたり、ギェルバンク Gülbank とよばれる祈禱文の言葉が違っていたりすることが確認できる程度で、大きな変化は観察されなかった。あるいは、小泉が残したノートには「クレシェンド6人、zurna3人、ペット3人（1）nakarazen3人、シンバル3人、tavul2人、kösler1人、隊長1人」⁴とあり、現行のメフテル団は大規模化（順に10人、5人、5人、5人、5人、5人、1人）していることがわかるが、これも音楽的内容を大きく左右するものではなく、現況を促すような音楽的要素とは考えにくい。

そこで演目に着目し、その変化を見てみた。

1964年には、メフテル・バシメhter başı による団員たちへの呼びかけ（チャウル Çağrı）から始まり、最後にギェルバンクが読み上げられるまでのあいだに、以下の楽曲が演奏されていた⁵。ラスト・ベシユレヴィ Rast Peşrevi(①)、エイ・シャンル・オルドゥ Ey Şanlı Ordu(②)、イスタンブル・フェテデン・イエニチュエリイェ・ガゼル İstanbul'u Fetheden Yeniçeriye Gazel(③)、アルタル・ジハトゥラ・シャヌムズ Artar Cihadla Şanımız(④)、エステルゴン・カラス Estergon Kal'ası(⑤)、メフテル・マルシュ Mehter Marşı(⑥)、である。

2009年で演奏されたのは、ベシユレヴ(⑦)、オルドゥヌン・ドゥアース Ordunun Duası(⑧)、マラズギルト・マルシュ Malazgirt Marşı(⑨)、サンジャック・マルシュ Sancak Marşı(⑩)、アルタル・ジハトゥラ・シャヌムズ(⑪)、メフテル・マルシュ(⑫)、ターリヒ・チュヴィル Tarih Çevir(⑬)、チュルプヌルドゥ・カラデニズ Çırpınırdı Karadeniz(⑭)、シェフザーデ・シュレイマン・マルシュ Şehzade Süleyman Marşı(⑮)、ジェッディン・デデン Ceddin Deden(⑯)、ヒュジュム・マルシュ Hücüm Marşı(⑰)、である。なお、1964年と同様にチャウルとギェルバンクは音楽演奏の前後にある。

これらの楽曲が作られた時期を特定するために、表1にその作者を生年／没年とともに可能な限り一覧化した。なお、丸数字は上記に対応する（器楽曲である①、⑦、⑰の作者は不明）。

表1を見ると、そのほとんどが19世紀末～20世紀前半に活躍した人物の作品であり、1964年／2009年において演目の変化はほとんどないと言えよう。つまり、現況を促すような近年の新曲はなく、固定された演目の演奏が繰り返されているのである（なお、2009年6月26日にも同様の調査をおこなったが、そこでの演目も同時期の作品が中心であった⁶）。

楽の専門教育を受けた団員によって構成されている点にある、とのことである（2008年8月24日）。

³ 同公演に関する録音資料は東京芸術大学音楽学部に附設されている小泉文夫記念資料室に所蔵されている。

⁴ 名称をトルコ語に統一すると、順にチュヴゲン çevgen、ズルナ zurna、ボル boru、ナッカーレ nakkare、ズイ zil、ダヴル davul、キョス kös、メフテル・バシメhter başı となる。

⁵ なお、丸数字は後述する楽曲の作者一覧（表1）に対応している。

⁶ 曲目はベシユレヴ→デヴレット・マルシュ Devlet Marşı（作詞：Şinasi 1826-1871／作曲：Fethi Saçalan→オルドゥムズ・エッティ・イェミン Ordumuz Etti Yemin（作詞：Namık Kemal 1840-1888／作曲：İsmail Hakkı Bey 1865-1927）→シェフザーデ・シュレイマン・マルシュ(⑮と同じ)→メフテル・マルシュ(⑥⑫と同じ)→ベシユレヴ→ターリヒ・チュヴィル(⑬と同じ)→チュルプヌルドゥ・カラデニズ(⑭と同じ)→ジェッディン・デデン(⑯と同じ)→ヒュジュム・マルシュ(⑰と同じ)であった。なお、チャウルとギェルバンクが音楽演奏の前後にある。

【表1】 国防省メフテル団の定期公演演目の作者一覧（1964／2009）

	作詞者	作曲者	備考
②	—————	İsmail Hakkı Bey 1865-1927	
③	Yahya Kemal Beyatlı 1884-1958	Münir N. Selçuk 1900-1981	
④	—————	Kâzım Uz 1871-1943	
⑤	Kemal Altınkaya	—————	
⑥	Ahmet Muhtar Paşa 1839-1919	İsmail Hakkı Bey 1865-1927	
⑧	Mehmet Akif Ersoy 1873-1936	—————	
⑨	N. Y. Gençosmanoğlu 1929-1992	—————	
⑩	İbrahim Alaadin Gövsa 1889-1949	İzzettin H. Elçioğlu 1876-1950	
⑪	—————	Kâzım Uz 1871-1943	④と同曲
⑫	Ahmet Muhtar Paşa 1839-1919	İsmail Hakkı Bey 1865-1927	⑥と同曲
⑬	Faruk Gürtunca 1904-1982	Cemal Cümbüş	
⑭	—————	Üzeyir Hacıbeyli 1885-1948	
⑮	—————	Kâzım Uz 1871-1943	
⑯	—————	Ali Rıza Bey 1881-1934	

文化省メフテル団

国防省メフテル団では演目の更新が見られない一方で、文化省メフテル団では演目の更新が常になっている。とくに海外公演においては、トルコ芸術音楽／民俗音楽、さらには現地の音楽をも編曲して奏している⁷。たとえば、2008年10月20日におこなわれたロシア公演⁸では、アレクサンドロフ・アンサンブルとの合同演奏会にて表2のとおりである。

【表2】 2008年ロシア公演演目、ならびに音楽ジャンル

	曲名	ジャンル	メフテル団
01	Rusya Federasyonu Milli Marşı	国歌（ロシア）	——
02	İstiklal Marşı	国歌（トルコ）	参加
03	Suzinak Peşrev	メフテル	参加
04	Mehter Vuruyor	メフテル	参加
05	Tı pozovi menya Rossiya	ロシア曲	——
06	Nihavent Longa	伝統的トルコ芸術音楽	参加
07	Hicaz Hümayun Peşrev	伝統的トルコ芸術音楽	参加

⁷ 2008年の公演先は次のとおりである。01月04～07日：カルス／02月10～12日：カフラマンマルシュ／03月20～22日：ムーラ／04月23～25日：チャナッカレ／04月30日：アダバザル（カラス）／05月01～03日：カスタモヌ／05月17～18日：チャナッカレ／06月10～15日：ロシア／06月20～22日：ドイツ／06月26～30日：ボスニア・ヘルツェゴビナ／08月05～07日：ブルドゥル（インス）／08月25～31日：アフヨン、ウシャック、キュタヒヤ／09月05～07日：バルケセル／09月14日：イスタンブル（トプカプ宮殿）／10月17～23日：ロシア／11月21日：イスタンブル（オルタキョイ）／11月30日：コンヤ／12月26～29日：カルス。

⁸ 同団のエルデムセル氏の教示による。なお、本公演はTRT 国営放送によってDVD化されているとのことだが未見である。

08	Soloviyi Rossii	ロシア曲	—
09	Estergon Kalesi	メフテル	参加
10	Tavas Zeybeği	トルコ民俗音楽	参加
11	Ballada O Soldate	ロシア曲	—
12	Kazak Dansı	ロシア曲	—
13	Ceyranım Gel Gel	トルコ民俗音楽	参加
14	Zavituşki	ロシア曲	—
15	Ah tı , noçenka	ロシア曲	—
16	Ney Taksimi/ Tekbir/ Sedat-i Ummiye ⁹	伝統的トルコ芸術音楽	参加
17	Genç Osman ¹⁰	メフテル	参加
18	Karadeniz Oyunu	トルコ民俗音楽	参加
19	Katyuşa	ロシア曲	参加
20	Yine Bir Gülnihal	伝統的トルコ芸術音楽	参加
21	Hekimoğlu	トルコ民俗音楽	参加
22	Glyaju v ozöra sinie	ロシア曲	—
23	Ceddin Deden	メフテル	参加
24	Uvezu Tebya ya v tundru	ロシア曲	—
25	Poputnaya Pesnya	ロシア曲	—
26	Kırklareli Ekibi	トルコ民俗音楽	参加
27	Kalinka	ロシア曲	参加
28	Ceddin Deden	メフテル	参加

このように既成曲の編曲を通じて演目が更新されているのだが、同団員からの聞き取りによると、これは彼らのメフテル団に顕著なことで、他団体にはあまり見られないことなのだそう。この言葉を裏付けるべく、2010年9月12日に国防省メフテル団がトリノ（イタリア）でおこなった演奏を採録し、演目を確認したが、編曲作品は含まれていなかった¹¹。

しかしながら、編曲作品は公演先での需要や嗜好に応えたもの（または先回りして応えようとしたもの）であり、演目の核となっているのは、やはり19世紀末～20世紀前半の作品を中心に固定化された演目である¹²。

以上、2008年から2010年におこなった国防省と文化省のメフテル団に関する調査に基づけば、

⁹ イラーヒ ilahi と呼ばれる宗教讃歌で、芸術音楽に分類されることが多い。

¹⁰ トルコ民俗音楽に分類されるとともに、メフテルのレパートリーとしても定着している。

¹¹ その次第は、エステルゴン・カラス（⑤と同じ）→ブナ・エル・メイダヌ・デルレル Buna Er Meydanı Derler→エスキ・オルドゥ・マルシュ Eski Ordu Marşı→メフテル・マルシュ（⑥⑫と同じ）→シェフザーデ・シュレイマン・マルシュ（⑮と同じ）→ヒュジュム・マルシュ（⑰と同じ）である。なお、チャウルとギェルバンクが音楽演奏の前後にある。

¹² わずかながらではあるが、メフテルがポップ化した場合も確認された。1999年には《ジェッティン・デデン》がサンプリングされてクラブ・ミュージックとして発売された（Ottoman Military Project - Ceddin Deden）。また、いわゆるコラボレーションとしてイスタンブールのエユップ地区メフテル団 Eyüp Sultan Mehteranı がポピュラー音楽のグループ、アテナ Athena と合奏（12 Dev Adam）をおこなっている。ポピュラー音楽との関連については今後の課題としたい。

メフテルの盛行は音楽的な変化に起因するものではないと、ひとまずは言えよう。

音楽以外の事象との関係

現状に対して音楽的要因が認められなかったため、音楽以外の事象に要因を見いだすべく新聞記事の分析をおこなった。分析は1999年と2009年のヒュリエット Hürriyet 紙¹³に掲載されたメフテル関連の記事の内容を比較検討する方法をとった。

同紙におけるメフテル関連の記事数は、表3にも明らかなように、1999年から2010年までの間はジグザグに進行しながらも、増加傾向を示している¹⁴。

【表3】メフテル関連記事の推移（1999－2010年）

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
記事数	41	27	16	38	28	51	41	59	80	95	64	86

両年の記事は脚注15、18のとおりだが、それらを次の項目に従って分類し分析を試みた。

- ① メフテルの演奏やその担い手であるメフテル団の紹介といった実践的内容を記事の主題とした場合。記事の傾向から以下の二つのパターンに類型化できる。
 - A：公演報告（予告）や団体紹介など、演奏に直接的に関係する記事。
 - B：楽曲のアレンジやサンプリングによる作曲など、演奏に間接的に関係する記事。
- ② メフテルの実践を伝えるが、記事の主題ではない場合。記事傾向から以下の二つに類型化。
 - A：公演報告（予告）や団体紹介など、演奏に直接的に関係する記事。以下の二つに類型化。
 - a：音楽が主となる行事。
 - b：音楽が主ではない行事。
 - B：楽曲のアレンジやサンプリングによる作曲など、演奏に間接的に関係する記事。
- ③ メフテルの演奏やその担い手であるメフテル団の紹介といった実践に関する記事以外で、メフテルを主題とした場合。記事の傾向から以下の二つのパターンに類型化できる。
 - A：メフテルのことに直接的に言及している記事。記事傾向から以下の二つに類型化。
 - a：評論から個人的な好みまでを含むメフテル観、あるいは話者（コラムニストや取材対象者）とメフテルの関わりの表明といった、現代のメフテルに関する記事。
 - b：おもに歴史に関する解説として、過去のメフテルに関する記事。
 - B：メフテルのことに間接的に言及している記事（メフテルが主題となりつつも、メフテルそれ自体の扱いは二次的な場合）。
- ④ メフテルの演奏やその担い手であるメフテル団の紹介といった実践に関する記事以外で、メフテルを主題としない場合。記事傾向から以下の二つに類型化。
 - A：メフテルのことに直接的に言及している記事。記事傾向から以下の二つに類型化。
 - a：評論から個人的好みまでを含むメフテル観、あるいは話者（コラムニストや取材対象者）とメフテルの関わりの表明といった、現代のメフテルに関する記事。

¹³ 共和国のメディア産業市場の七割を独占するドアングループ傘下の中道大衆紙で、代表的日刊紙である（阿部 2004：18）。

¹⁴ 同紙のホームページ掲載の過去の記事一覧にはこの数字よりも多く表示されるが、これらには、「mehter」の文字を含む地名や人名などが含まれていたり、記事が重複していたりするためである（本稿での記事件数はそうした部分を取り除いている）。

- b: おもに歴史に関する解説として、過去のメフテルに関する記事。
 B: メフテルのことに間接的に言及している記事。記事傾向から以下の二つに類型化。
 a: 比喩や小話など。 b: その他。

1999年メフテル関連記事分類¹⁵

【表4】1999年メフテル関連記事分類

メフテル 関連記事 ¹⁶	実践系	主題	直接的	①A: 5	
			間接的	①B: 0	
	非主題	主題	直接的	②Aa: 2 / ②Ab: 14	
			間接的	②B: 2	
	非実践系	主題	主題	直接的	③Aa: 0 / ③Ab: 0
				間接的	③B: 0
非主題		主題	直接的	④Aa: 8 / ④Ab: 1	
			間接的	④Ba: 4 / ④Bb: 5	

- ①A: オスマン帝国建国700周年に関連したコンサートが3本 (10/13/18)¹⁷、オーケストラとの共演が1本 (08)、海外でのトルコ紹介行事での演奏が1本 (11)。
 ②Aa: いずれも音楽とともに歴史を振り返るイベント (37/38) に関する記事。
 ②Ab: オスマン時代に関連付けられた行事での演奏が4本 (03/06/15/17)、政治家の動向などの政治関連の記事でメフテルの演奏が伝えられているのが6本 (09/20/25/26/27/29)、個人的な宴席での演奏が2本 (23/34)、ニューヨークでの演奏が1本 (14)、その他が1本 (22)。
 ②B: メフテル調の旋律が使われている正道党 DYP の選挙キャンペーン曲 (05) と、メフテ

¹⁵ 以下に1999年の記事を「記事に付した通し番号/日月/見出し/分類表該当番号」の順に記載する。
 01/03.01/700'üncü yıl için/④Aa; 02/04.01/İngilizlere saray müziği çaldırıyor/④Aa; 03/27.01/Osmanlı 700 yaşında/②Ab; 04/10.02/Osmanlı mehterle cenaze kaldırtmadı/④Ab; 05/14.02/Özer Bey'li start/②B; 06/20.03/Osmanlı'nın 700. yılına ilk dış kutlama/②Ab; 07/20.03/Bir hata yaktı!/④Ba; 08/17.04/Mehterli senfoni/①A; /09/22.04/Mehteranla göreve/②Ab; 10/27.04/Mehter'den Mozart'a, Osmanlı'dan Türkiye.../①A; 11/29.04/Türk Yürüyüşü'nde Mehter/①A; 12/08.05/Viyana kuşatmasının hazineleri üç asır/④Bb; 13/21.05/İl il sanat/①A; 14/22.05/Newyork Newyork/②Ab; 15/28.05/Fatih otağdan çıktı kutlama başladı/②Ab; 16/29.05/Kabakulak/②B; 17/29.05/İstanbul'da fetih coşkusu/②Ab; 18/31.05/Zaide/①A; 19/15.06/Bize ne tarihten/④Aa; 20/26.06/İlik bankası gereksiz/②Ab; 21/03.07/Turizmcı çırpınıyor/④Aa; 22/10.07/Kangal Festivali/②Ab; 23/19.07/Türk viagrası tanıtıldı!/②Ab; 24/29.07/Memleketin imajını kurtardı!/②Ab; 25/30.07/Erciyes, Zafer Kurultayı'na hazır/②Ab; 26/01.08/İktidar sözü/②Ab; 27/07.08/Kurultay böyle geçti/②Ab; 28/03.09/Kısa kısa/④Aa; 29/13.09/'Aç-kapa' oldu/②Ab; 30/01.10.1999/Kısa kısa/④Bb; 31/13.10/Pakistan'daki darbe neyi değiştirir ki?/④Ba; 32/16.10/Kurşun askerler/④Bb; 33/01.11/Marşlar ihtilâlsiz de dinlenir/④Bb; 34/07.11/Aman Hürriyet, canım Hürriyet/④Aa; 35/08.11/Aziz Nesin'lik hikayeler Levent Kırca'lık.../④Bb; 36/09.11/Bildiğin gibi Gazi Paşa/④Aa; 37/18.11/Fay hattı rezaleti/②Aa; 38/18.11/Muhteşem bir gecenin ayrıntıları/②Aa; 39/18.12/Hayatını dansla anlatacak/④Aa; 40/22.12/Birlik yöneticileri karara isyan ett/④Ba; 41/24.12/Shorunmu ve Ahmet/④Ba

¹⁶ 表内における数字は記事の本数を示している。

¹⁷ カッコ内の数字は文末脚注15の通し番号に対応している。同様に2009年の場合は文末脚注18の通し番号に対応している。

ルをアレンジしたクラブ・ミュージックの紹介（16）。

- ④Aa：肯定的な評論が3本（21/28/39）、否定的なのが5本（01/19/21/34/36）。
 ④Ab：社会とメフテルの関わりについての歴史的解説が1本（04）。
 ④Ba：比喩としてメフテルに言及が3本（07/40/41）、定型句としてメフテルに言及が1本（31）。
 ⑤Bb：博物館所蔵の楽器への言及が1本（12）、オスマン帝国建国700周年に関連した非音楽的行事でメフテルの衣装への言及が2本（30/32）、メフテルを除外した行進曲の説明が1本、メフテル団の役を演じた俳優に関する記事が1本（35）。

2009年メフテル関連記事分類¹⁸

【表5】2009年メフテル関連記事分類

メフテル 関連記事	実践系	主題	直接的	① A : 1
			間接的	① B : 1
		非主題	直接的	② Aa : 0 / ② Ab : 43
			間接的	② B : 3
	非実践系	主題	直接的	③ Aa : 0 / ③ Ab : 0
			間接的	③ B : 0
		非主題	直接的	④ Aa : 7 / ④ Ab : 2
			間接的	④ Ba : 5 / ④ Bb : 2

¹⁸ 以下は2009年の記事である。01/25.01/Karayağın'dan üniversite sözü/④Ba? ; 02/30.01/Çöp, çukur, çamur tarihte kaldı/④Aa ; 03/04.02/Erdoğan için tam sayfa ilan Verdi/②Ab ; 04/23.02/Davos krizi Arapları Türkiye'ye çekecek/④Ba ; 05/10.03/İstanbul'daki Nevruz programı belli oldu/②Ab ; 06/20.03/İstanbul'da Nevruz Bayramı kutlamaları/②Ab ; 07/20.03/Bakan'dan çok tartışılacak sözler/②B ; 08/21.03/Nevruzda mesir karıldı/②Ab ; 09/25.03/Turgutreis'te MHP-DTP kavgası/②Ab ; 10/31.03/Manisa'nın MHP'li başkanına Mehter Marş.../②Ab ; 11/09.04/Karabağ çözülmeyen sınır açılmaz/②Ab ; 12/24.04/23 yıl aradan sonra tiyatro/②Ab ; 13/06.05/Arıç: "Kriz yılbaşında biter"/②Ab ; 14/13.05/Bu heykeller uzaydan görülebilecek/②Ab ; 15/15.05/Davutoğlu Mehter Takımı ile karşılandı/④Aa ; 16/23.05/New York kırmızı beyaz oldu/②Ab ; 17/28.05/Ulubatlı Hasan'ı anma töreninde 2 yaralı/②Ab ; 18/28.05/İstanbul'un fethinin 556. yıldönümü/②Ab ; 19/29.05/İstanbul'un fethinin 556. yılı/②Ab ; 20/06.06/Bülent Arıç İstanbul Park'ı gezdi/②Ab ; 21/06.06/115 ülkeden 700 öğrenci Türkçe için yarıştı/②Ab ; 22/07.06/Çevre'ye kolbastı/②Ab ; 23/10.06/Ankara Kalesi'nde Festival başlıyor/②Ab ; 24/14.06/Heykele yasak, şov kızlarına izin/②Ab ; 25/22.06/'Yeter artık' diyenler 1/④Ba ; 26/26.06/Festivaller düzen içinde yapılmalı/④Ab ; 27/28.06/Havuzda rezalet/②Ab ; 28/29.06/ABD'li ünlü yapımcı Oprah Winfrey Türki/②Ab ; 29/30.06/İzmir'de mürver şurubu İstanbul'da şekerpare/②Ab ; 30/30.06/Oprah'ın Çırağan'daki partisinde neler yaş/②Ab ; 31/02.07/Cerrah'a Adana'da karşılama töreni/②Ab ; 32/08.07/Wilson'dan kalede mehter/①B ; 33/19.07/Mehteran/①A ; 34/21.07/Deep Purple'dan 'Katibim' yorumu/④Ab ; 35/23.07/Mick Jagger olsa belki/②Ab ; 36/01.08/Kanada'da Toronto Türk festivali başladı/②Ab ; 37/02.08/Kipasıyla Türk Günü'ne katıldı/②Ab ; 38/03.08/Statta düğün tartışması/②Ab ; 39/18.08/Tüm ilçeler ramazana hazır/②Ab ; 40/19.08/Ramazan kampanyaları/②Ab ; 41/21.08/Büyükşehir'den fikir sohbetleri/②Ab ; 42/25.08/Büyük Taarruz'un 87. yıl dönümü/②Ab ; 43/09.09/Belediye orkestrası dünyayı dolaşiyor/②B ; 44/15.09/Gül kokulu insan hakları/④Aa ; 45/16.09/Erdoğan: "Türkiye yeniden tarihe dönüyor"/②Ab ; 46/19.09/Gazilerimizin gurur günü/②Ab ; 47/25.09/Çubuk geleceğin Çayyolu olacak/②Ab ; 48/29.09/Times'da Mehter/④Aa ; 49/03.10/Erdoğan kredi derecelendirme kuruluşlarına./②Ab ; 50/04.10/New York'ta Türk günü düzenlendi/④Aa ; 51/05.10/Hürriyet Treni Malatya'da

- ①A：歴史的な芸術作品の展覧会での演奏（33）。
 ①B：トルコPRビデオにメフテル出演（32）。
 ②Ab：国内と国外に分けると、前者が37本で後者が6本。前者の内訳は、オスマン時代関連行事での演奏を伝えるのが3本（17/18/19）、政治家の動向などの政治関連の記事で演奏が伝えられているのが11本（09/10/11/13/20/31/38/45/49/55/60）、個人的な宴席での演奏を伝えるのが4本（03/28/29/30）、「伝統行事」での演奏が6本（ネヴルーズ：05/06/10、ラマダーン：39/40/41）、その他が13本（12/14/21/22/24/27/42/46/47/51/52/53/63）¹⁹。国外での演奏はニューヨーク（16/50）、アラブ首長国連邦・アブダビ（35）、トロント（36/37）、スイス・ヴァンゲン（62）で、米国とカナダは「トルコ・デー」での演奏。
 ②B：ファズル・サイの作品におけるメフテル的要素（05）、アンカラ市立交響楽団との共演（43）、民族主義（愛国主義？）的動画の背景音楽にメフテルが使用（58）。
 ④Aa：肯定的に論じているのが5本（02/15/48/50/56）、否定的なのが2本（44/57）となっているが、メフテルは否定されず、特定の文脈にそぐわないことが論じられている。
 ④Ab：モーツァルトの楽曲の説明においてメフテルの歴史的関係に言及されている（26/34）。
 ④Ba：比喩的言及が3本（25/59/64）、観光振興の案的にメフテルを示しているものが1本（04）。
 ④Bb：人物紹介においてその経歴にメフテルとの接点があることが伝えられている（54/61）。

1999年におけるメフテル報道の特徴

- ・オスマン帝国建国700周年ということもあり、オスマン時代との関連で記事化されることが多い（03/06/10/13/15/17/18/30/32）。
- ・二月の総選挙で大躍進を果たし連立内閣にも入閣した、民族行動党 MHP に関連する記事での言及が多い。同党（あるいはトルコ民族主義者たち）がメフテルに高い価値づけをしていることが影響していると考えられる（09/20/25/26/27）。
- ・セルダル・トゥルグット Serdar Turgut（コラムニスト）はメフテルを否定的に論ずる傾向が強い。民族主義者への反発か？（04/19/34）

2009年におけるメフテル報道の特徴

- ・相対的にオスマン時代と関連している演奏が減少している（17/18/19）のが目目を引く。その一方でメフテルが奏される場が多様になり、なかでもネヴルーズやラマダーンといった「伝統的」な行事での演奏が増えているのが特徴的である（05/06/10/39/40/41）。
- ・政権与党である公正発展党 AKP に関連する記事での言及が多い。単に同党の動向を伝える政治関連記事（09/11/13/20/38/45/49/55/60）ばかりでなく、それ以外の内容でも公正発展

çoşkuyla karşıla/②Ab：52/06.10/Sosyal proje yoksa mutlu toplumu unut/②Ab：53/12.10/Türkiye：1 - Ermenistan：0/②Ab：54/13.10/Samson ve deha vu/④Bb：55/17.10/Arınc: Anasının nikahını istemeyin/②Ab：56/17.10/Kürt Açılımı'nın Leyla Zana'nın evliliğiyle/④Aa?：57/18.10/Kayseri'de tren mutluluğu/④Aa：58/22.10/İnternette tartışma yaratan klip/②B：59/30.10/Barış, geldiysen üç defa vur/④Ba：60/07.11/MHP'nin "öfke" kongresi/②Ab：61/11.11/Madenciler de modaya uyacak/④Bb：62/04.12/Dünyayı sarsan minare/②Ab：63/05.12/Konak Pier'de dinlenmiş et/②Ab：64/17.12/Bırak, yazsın İsme/④Ba

¹⁹ 劇場開き式典（12）、彫像の除幕式（14）、トルコ語オリンピック（21）、世界環境デー式典（22）、水泳大会（27）、サッカーの国際試合（53）などである。

党とメフテルの文字が同じ記事に出現しているのが見られる（03/08/22/47）。また、同党首であり首相でもあるレジェップ・タイイップ・エルドアン Recep Tayyip Erdoğan がメフテルの歌詞を引用して過去からの継続性を論じたり（02）、同党所属で外相のアフメット・ダヴットオウル Ahmet Davutoğlu がメフテルを「我々（トルコ人）の精神」と表明したり（50）、積極的な価値付けをおこなっている。

・メフテルそのものに対する否定的な論評がなくなった。

1999年／2009年におけるメフテル関連記事の比較考察

以上から読みとれるのは、メフテルは文化的、あるいは芸術的な関心事よりは、むしろ政治との関連で記事化される傾向にあるということである。1999年には選挙で躍進した民族行動党で、2009年では（2002年以来）単独で政権を運営し、政治的・経済的安定をもたらした公正発展党である。両党ともにメフテルに対して高い価値づけをしているが、とくに後者は長期にわたる単独政権を維持しているため、注目度も高くそれが如実に記事数に反映されている。

そうした報道のなかには党首（＝首相）によるメフテルの歌詞の引用や、閣僚による肯定的なメフテルへの評価が含まれており、メフテルの盛行を後押ししているかのようである。メフテルそのものに対する否定的な論評がなくなったことも、これに関係するかもしれない。

こうして見てみると、演目が「伝統的」レパートリーに留まっていることも、政治との関連で理解することができる。民族行動党も公正発展党も、民族主義系／イスラーム系と力点は異なるものの、保守政党だからである。また、2009年に確認されたラマダーンやネヴルーズといった伝統的行事での演奏も、こうした政治的状况に起因していると考えられ、もしこの政治状况が続けば、伝統の再解釈・再編成が進むことも考えられる。

今回の調査からはメフテルの盛行と政治の関連を見てとることができたが、当然のこととしてこの理解は一面的・表層的であるといわざるを得ない。今後は経済的状况や共和国の国際的な位置づけ、あるいはクルド問題に代表される反トルコ民族主義的な動きなどが、政治や文化観に及ぼす影響、さらにそれらがメフテルに直接的／間接的に及ぼす影響を紐解きながら、メフテルの盛行がどのように構築されているのかを分析する必要があると思われる。

参考文献表

- 阿部るり 2004 「イスラーム復興とマス・メディア」『コミュニケーション研究』上智大学コミュニケーション学会：第34号：1-34頁。
- 小柴はるみ 1994 「トルコの軍楽」『ニューグローヴ世界音楽大事典 第12巻』講談社：45-46。
- 柘植元一 1982 「西アジア トルコ」『音楽大事典 第4巻』平凡社：1710-1714。
- Şahiner, Necmeddin. (2007). *Avrupa'yı Titreten Musiki Mehter*, Ankara, Elips Kitap.
- Tuğlacı, Pars. (1986). *Mehterhane'den Bando'ya*, İstanbul, Yem Yayınevi.
- Üngör, Etem. (1966). *Türk Marşları*, Ankara, Türk Kültürünü Araştırma Enstitüsü.

付記

本研究は、科学研究費補助金・基盤研究（B）『イスラム世界の形成過程におけるアラブ音楽創出メカニズムの解明（2008年～2010年、研究代表者：水野信男）』の成果の一部である。